

山の百名花

ゲスト 山谷 健

【47】ツクバネウツギ

先日、大月の近くにある花咲山に行つて来ました。もう山は初夏の雰囲気、木々の若葉も出そろつて、〇〇ウツギと名の付く低木の花が咲いていました。その中で、最も多くあつたのが、クリーム色をしたツクバネウツギ。踏み跡程度の登山道の両脇にたくさん咲いていました。

ツクバネウツギは、ピンク色の花を咲かせるタニウツギやハコネウツギと同じ仲間スイカズラ科の低木で、花はラッパ状の形をしています。花をよく見ると、花の根本の顎が5枚、ちょうどプロペラのように広がっています。そう、これが名前の由来、花が終わった後、顎は残つて種を運搬する役目を担っています。風が吹くとプロペラのようにくるくる廻つて、飛んで々、遠くに行くことができます。動けない植物ができるだけ遠くに行けるように考えたすばらしい技です。風に乗って飛んでいる姿を想像すると楽しくなります。こんな種を付ける植物は他にも、カエデ類やその名もずば

り「ツクバネ」などがあり、自然の周到なデザインには驚かされます。

さて、登山道には、他の仲間のウツギであるコゴメウツギ(バラ科)、ウツギ(うのはなユキノシタ科)もたくさん咲いて、まさしくウツギ天国、初夏の花を楽しんで下山しました。



【48】カニコウモリ

ロープウエイを降りて、鹿柵の中に入ると、この山の代表選手シラネアオイがぼつりぼつりと咲いていました。そう、日光白根に来たのです。山頂に向かう登山道は

細くなり、山腹をトラバースするようになると、シラベなど針葉樹林の林床には、一面にカニコウモリが白い花を付けていました。今までは単独に咲いているものしか見たことがなくて、あまり目立たない花だなど思っていました。こんなにたくさんのカニコウモリがまとまって咲いているのを見ると、なかなか迫力があります。

カニコウモリ、なかなかいい響きで面白い名前ですね。初めてこの植物を知ったのが、学生時代に秩父の大弛峠付近で、植生調査の手伝いをしていた時、カニとコウモリをあわせた名前は、すぐに覚えることができました。

葉は大きく、カニの甲羅を連想させますし、コウモリが羽を広げたときの形に似ています。名前の由来はカニの甲羅に似ているコウモリソウだとか。見たとおりに名前が付けられた植物ということですね。

この時期になると、針葉樹林にはカニコウモリをはじめ、オサバグサ、ミツバオウレンなどが咲き始め、単調だった森も活気づいてきます。春と夏が同居してよいよ登山のベストシーズンが始まります。